

## 内モンゴル東部農村地域におけるモンゴル人男性の結婚難問題 —結婚準拠枠を手がかりに—

烏英嘎(中央大学)

1980年代中国のアンバランスな男女出生比が現在の結婚適齢期の女性不足問題や男性の結婚難を引き起こしている。中国で2013年以降、男性過剰人口は毎年約10%以上で、2015年～2045年で15%に達し、毎年、平均おおよそ120万人の男性が結婚市場で初婚相手が見つからないと予測されている(李・姜・伊莎贝尔・费尔徳2006)。内モンゴル農村地域に目を移すと、郝(2008)は調査地の内モンゴル東部地域の4つの村で、1996年時点では一番高い所で人口544人のうち15.6%であったのに対して、2005年では未婚率の頂点は、人口191人のうち21.5%までに上昇していると述べている。加えて、張(2015)は内モンゴルモンゴル村落の青年の結婚問題について調査をし、対象者241人の結婚適齢期の男性の中で、1980～84年生まれの未婚男性の割合は37%であり、1985～89年生まれば64%であるのに対し、1990～92年生まれの男性では、未婚者の割合が90%にもものぼると述べている。その結婚難の要因について主に、計画出産政策・第三産業発展・伝統意識による影響、女性の結婚観の変容、男性個人の問題など多方面から分析されている。しかし、結婚難に陥るまでのプロセス、及び結婚難の潜在的な要因について十分分析されてこなかった。そのため、本研究では、結婚の準拠枠を手がかりに、内モンゴル農村地域の男性の結婚難の現状を分析したいと思う。

本研究で使用するデータは、2017年1月11日～2017年2月14日で内モンゴル東部農村地域に実施した半構造インタビュー調査で、調査対象者は20歳～35歳までの既婚男女と未婚男女の28人である。調査地の結婚に関する多様な意識を考察するため、多様なカテゴリー(既婚/未婚、ジェンダー)を選び、比較することで、結婚難に至るまでの過程及びその背後にある真実を探りたいと思う。

その結果、調査地では男性の(1)出会えるハードルが高くなった。女性の結婚の準拠枠が変容し、出稼ぎ活動が始まる前に、調査地では、村内婚や近隣村婚が多かったが、現在近隣村婚はかろうじて存在しているが、村内婚はなかなか難しくなった。出稼ぎ先で結婚相手を探す人が増え、女性にとって出会いルートが増えたが、男性にとって狭くなり、またはなくなった。(2)出会えるハードルを乗り越えても結婚のハードルが高い。結婚するときの準拠枠が村人、親戚、近隣村の人など実体的、固定的な集団から実体ではなく、流動的な集団、個人に変わり、それにより、女性側から男性側への要求も婚資から多数のものに変容した。

(キーワード: モンゴル人男性、結婚難、準拠枠)